

海ゆく掛掛の毛一文字は飛と云是と谷渡も云此
のれ結句らんとうつとうきべー古寫本の註にうゝを
上よまひるまきのぬやつひーのそ柿のあはあききき
初とさればまづあえらるる君侯ハ未れ山麿の言六十
四首の中は未のぬはあつ柿れりつゝあつ麿乃
萩よきへや鴨とつゝむともあれを柿あときへハ
裁切^{タチ}くのらあゝ柿のあを切くあききこのぬとつゝあ麿の
うゝききききききききききききききききききききき
を此と云詞上の烈きぬとつゝあはよりききききき
意や慈鎮和尚百首よばらるれあききききききききき